

児童生徒の自己指導能力の 育成に関する研究

— 教育相談の機能を生かした教育活動を通して —

平成 27 年 3 月

北海道立教育研究所

はじめに

児童生徒が日常の生活において接する機会が多い大人は、教員と保護者です。教員や保護者は、児童生徒の抱える悩みを見過ごすことなく、できるだけ早期に捉え、わずかな変化に注意を払い、悩みが深刻化しないよう、日頃から一人一人にアドバイスや声掛けを行うことが大切です。

また、現代社会の変容に伴い、児童生徒が直面する問題はますます複雑多様化しており、教員と保護者が協力して問題解決に当たる必要があります。同時に、児童生徒の個々の問題を解決していくためには、児童生徒自らが主体的に解決する能力を高めることが求められます。

学校においては、児童生徒の自己指導能力の育成を生徒指導の理念として、児童生徒の人格形成のための教育活動が営まれています。全ての児童生徒に備わる自己指導能力を、自発的・自主的に育成するためには、学校での全体指導においても、個に対応するための教育相談的な関わりが必要となります。

これらのことを踏まえ、当研究所においては、教育相談の機能を生かした、日々の授業等における児童生徒の自己指導能力の育成を図る指導の充実が重要であるとの視点に立ち、本研究を進めてまいりました。

本研究の成果が、各学校における実践や校内研修で積極的に活用され、児童生徒の自己指導能力の育成に関する指導の一助となることを期待しています。

平成 27 年 3 月

北海道立教育研究所長 山 田 寿 雄

目次

はじめに

I 研究の経緯

- | | |
|------------|---|
| 1 研究の背景と目的 | 2 |
| 2 研究の概要 | 2 |

II 教育相談の機能を生かした指導の実際

- | | |
|--------------------------------|----|
| 1 教育相談の機能を生かした自己指導能力の育成を図る教育活動 | 4 |
| 2 指導計画例 小学校 | 7 |
| 3 指導計画例 中学校 | 15 |
| 4 指導計画例 高等学校 | 23 |

III 集団活動等における指導の在り方

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1 教育相談の考え方や手法を取り入れた集団活動等の工夫 | 29 |
| 2 家庭、地域との連携 | 33 |

IV まとめ

- | | |
|---------|----|
| 1 研究の成果 | 35 |
| 2 今後の課題 | 36 |

参考文献等

< 資料 >

活動の雰囲気をつくる「構成的グループエンカウンター」

気持ちを受け止める「傾聴」と「受容」

相手に思いを届ける「アサーション」

I 研究の経緯

1 研究の背景と目的

今日、児童生徒については、自分に自信がもてず、将来や集団生活に不安を感じている子どもが多くなっているという調査結果が出ているほか、当研究所への相談においても、いじめはもとより友人関係のトラブルに関する相談が相談回数全体の3分の1以上を占めるなど、大変深刻な状況にあり、児童生徒が好ましい人間関係を築き、生活に適応できるようにすることがますます重要となっていると言えます。

こうしたことから、子どもたちが望ましい集団を形成し、現在及び将来を豊かに責任をもって生きていく自己指導能力を育成するため、教育相談の機能を意図的・計画的に教育活動に生かすことが重要となっています。

本研究では、このような児童生徒の現状を踏まえ、教育相談の機能を生かした学校における教育活動の指導計画及び集団活動の充実に係る資料を作成し、児童生徒の自己指導能力の育成に関する研究を行うこととしました。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方について
- ・ 教育相談の機能を生かした集団活動等の工夫及び家庭、地域との効果的な連携の在り方について

(2) 研究の方法

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方について調査研究を行い、分析・検証に基づき自己指導能力の育成を図る学校の教育活動の指導計画を作成する。
- ・ 集団活動（地域の教育資源を活用した体験活動を含む）等における教育相談の機能を生かした家庭、地域との連携の在り方に関する資料を作成するとともに、作成した資料を検証する。

- ・ 研究協力校における、教育相談の機能を生かした教科等の指導方法及び指導計画の調査研究を行うとともに、検証のための聞き取り調査を行う。

(3) 期待される研究効果

- ・ 各学校において、教育相談の機能を生かした指導計画を効果的に活用することにより、日常の教育活動における児童生徒の自己指導能力を育成する指導の充実が期待できる。
- ・ 各学校において、集団活動等における教育相談の機能を生かした家庭、地域との連携の在り方に関する資料を活用することにより、児童生徒の自己指導能力を効果的に育成することが期待できる。

(4) 年次計画

平成 25 年度（1 年次）

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方に関する調査研究
- ・ 集団活動における教育相談の機能を生かした指導と家庭、地域との連携の在り方に関する調査研究及び調査研究に基づく資料の作成

平成 26 年度（2 年次）

- ・ 研究協力校における、教育相談の機能を生かした教科等の指導方法及び指導計画の調査研究
- ・ 集団活動等における教育相談の機能を生かした指導の在り方に関する調査研究
- ・ 研究報告書、リーフレットの作成と研究成果の普及

Ⅱ 教育相談の機能を生かした指導の実際

1 教育相談の機能を生かした自己指導能力の育成を図る教育活動

(1) 自己指導能力の育成

生徒指導提要によれば、生徒指導の意義は、「教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す」ことにあります。また、自己指導能力の育成について、児童生徒が「自分から進んで学び、自分で自分を指導していくという力（中略）が育つ指導を行っていくことが望まれます」と述べた上で、そのためには、「指導の中で児童生徒が主体的に取り組めるような配慮」が必要であるとしています。

つまり、生徒指導の意義である自己指導能力を育成するということは、児童生徒が自分から進んで学んだり、自分で自分を指導していく力を付けたりするため、教育課程の内外において、児童生徒が主体的に取り組める配慮のある教育活動を展開することと言えます。自己指導能力を育成することは、学校の教育目標を達成することにつながるのです。

(2) 教育課程の共通性と教育活動

学校の教育目標を達成する上で教育課程は、児童生徒の発達段階や特性などを考慮しながら、人間として調和のとれた児童生徒の育成を目指し、児童生徒の人間形成や成長発達に直接関わる役割を担っています。生徒指導提要では、この教育課程は、多数の児童生徒を対象として、一定の期間に、一定の資質や能力を育成しようとすることから、共通性が求められるとされます。しかし、児童生徒は一人一人異なった個性を持っており、それぞれの置かれた生育条件や環境条件は同じではありません。したがって、人間として必要な共通の基盤に立つ資質や能力の育成とともに、社会的な自己実現が図られるようにするためには、教師が児童生徒一人一人の個性的な資質や能力を伸ばしていくことが重要となります。

また、教育課程は、1 年を単位としてその時々時期にかなった組織的・体系的に教育活動を編成したり、児童生徒の実態を踏まえ、意図的・計画的に教育活動を編成したりすることに、その特徴があります。例えば、学校行事に向けてある一定の学習成果をまとめ、発表したり、その行事の目標が達成されるよう、役割を分担して活動したりし、組織的・体系的に教育活動が行われます。また、夏季休業などの際には、それまでの学習が定着しているかどうかを点検したり、各自の興味・関心に基づく課題を設定したりするなどして、意図的・計画的に教育活動が行われます。

教育課程においては、共通性が求められるとともに、意図的・計画的、組織的・体系的に教育活動を編成するところにその特徴があります。

（３）教育課程における教育相談の役割

生徒指導提要によれば、教育相談は、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません」とされています。

一方、生徒指導提要では、生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、学校全体として協力して行われる教育活動のこととされます。また、学習指導要領解説（総則編）では、生徒指導の充実を図ることを通し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係が育まれるとともに、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことにつながるとされます。

全ての教師が、あらゆる機会を通して、好ましい人間関係を基盤にしながら、児童生徒の人格の成長を援助していくという点において、教育相談と生徒指導は重なるところが多くあり、教育相談は、生徒指導の中心的な役割を担うものといえます。

教育課程の内外において一人一人に焦点を当てた教育相談的な視点で関わりをもつことにより、教育課程の共通性を補正したり、教育活動を編成する際、教育相談的な視点での関わりを組織的・系統的に、また意図的・計画的に行うことにより、自校の目指す児童生徒像がより明確にしたりすることができます。

各学校は、学習指導要領を基準にしながら、地域や学校の実態と児童生徒の心身の発達段階や特性を考慮し、組織的・系統的に、また意図的、計画的に独自の教育課程を編成します。個々の教師の児童生徒に対する日々の働き掛けは、状況に応じてその方法を変えることがあるにしても、基本は教育課程に沿ってなされていきます。

教育相談の目的は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、それは、学校教育の目的を実現しようとすることに他なりません。教育課程の中心は学習指導ですが、生徒指導や教育相談は学習指導を支える機能としての役割があります。

本研究では、教育相談を、教育課程を支える機能として捉え、教育相談の目的である「好ましい人間関係を育てる」「生活によく適応させる」「自己理解を深めさせる」「人格の成長への援助を図る」のそれぞれの視点で、時宜に適った教育活動に関連させ、児童生徒一人一人の自己指導能力の育成を図ることとしました。

(4) 家庭、地域との連携

生徒指導提要によれば、他者との好ましい関わりや豊かな集団生活を提供したり、教育的環境を形成したりすることは、学校教育の大きな目的の一つと言えます。しかし、児童生徒は学校のみならず地域や家庭に属していますから、学校が目指す人間像に、児童生徒が向かっていくためには、学校だけの取組では限界があります。

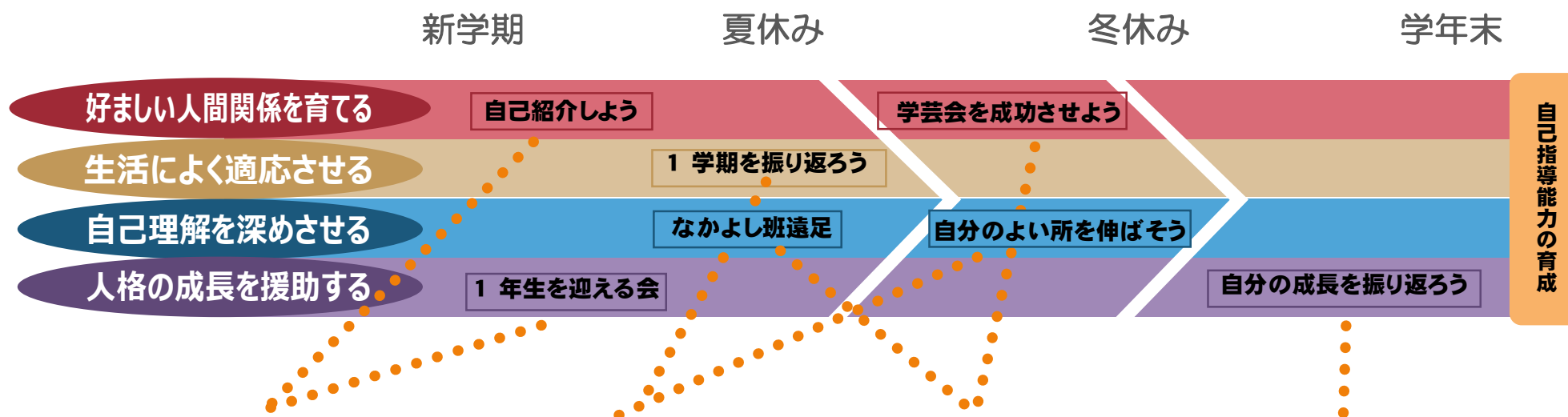
教育課程に含まれる教育相談に関わる課題については、自校の実態に即したものであることはもちろんですが、家庭や地域の状況についても視野に入れることが重要です。

家庭や地域との集団活動を提供する際には、学校における目的や課題を、子どもに関わる家庭や地域と共有し、必要な情報を交換（情報連携）するとともに、学校と家庭や地域が共同歩調を取ったり役割に応じた行動（行動連携）を取ったりする必要があります。

そうすることで、互いに分担した役割をそれぞれが自覚するとともに相手の役割を認識したうえで自分の役割を果たすこと（役割連携）ができるようになります。

学校と家庭、地域の動きが共通の目的に向かって行動連携や役割連携をするための資料として、「家庭や地域で生かせる子どもとの関わり方（リーフレット）」を作成しましたので、ご活用ください。

2 指導計画例 小学校



新学期に

新学期は、子どもたちが新しい仲間と好ましい人間関係を築かなければならない期間です。新しい学級に対する不安や緊張の中、相手の立場に立ち、お互いに協力して活動を進めようとさせることが大切です。

また、新学期は、今までの自分の成長を振り返りながら、新たな決意をすることができる時期であり、人格の成長を援助する良い機会でもあります。自分の役割や責任を自覚させ、活動を通して充実感や達成感を味わうことができるよう指導し、自分の成長を実感させます。

長期休業前に

長期休業前は、学期の振り返りを通して、自己理解を深めさせるよい機会です。自分のよいところは何か、そのよさをどう伸ばしていくかを考えさせます。

また、学期を振り返り、その後の生活によく適応させるため、学習や生活の点検をさせるよい時期でもあります。充実した休みを過ごすためにはどうしたらよいかを子どもたちに考えさせ、自己決定を促すことで、学習や生活上の問題を改善する機会です。

学校行事の前後に

学校行事では、子どもたちはクラスや異学年など、様々な集団に所属して活動することになります。多様な集団の中にあっても、自他の個性を尊重し好ましい人間関係を育てることが大切です。

行事の前後における、子どもたちの行動や発言の中から、そのよさを積極的に見出し生かすことによって、よりよい集団をつくることができるように指導することが大切です。

また、活動において、仲間との関わりを通して気付いたことを考えさせ、自己理解を深めさせることもできます。

学年末に

学年末は、自分の成長を振り返り、課題を把握し新年度への準備をさせる時期です。進級や進学にあたり、振り返りの中で自分自身の達成感や成就感を確認させ、人格の成長を援助する良い機会です。

過去と現在の自分を比較させ、1年間の自分の成長を振り返るとともに、新年度に向けて、自信をもって活動に取り組もうとする意欲をもたせます。

好ましい人間関係を育てる

自己紹介しよう（4月）

キーワード： 他者理解 自己存在感 人間関係

新学期は、子どもたちが新しい仲間と好ましい人間関係を築いていく時期です。

外国語活動では、自己や他者を理解する活動を通し人間関係を深めるとともに、特別活動では好ましい人間関係を築くためのルールを決めたり、道徳の時間では相手を思いやる気持ちについて学習したりして、好ましい人間関係を築こうとする態度を養います。

新しい学級に対する不安や緊張の気持ちを持ちながらも、自己存在感を互いに確認しながら仲間意識を醸成し、お互いに協力して活動をすすめようとする雰囲気づくりが大切です。

対 象	第 6 学年	教育課程上の位置付け	外国語活動 特別活動 道徳の時間
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
4 月	特別活動で学級のルールを決める ○学級会を開き、学級のルールを決める。 外国語活動で自己紹介の練習をする ○挨拶の表現や感情の表現、自分の好きなものを言う表現を理解する。 ○隣の座席の人と自己紹介をし合う。		☐ 学習や生活に必要なルールを話し合い、全員で確認しながら決定していく。 ☐ 自分のことを相手によく理解してもらえた喜びを実感させるため、聞き手は表情やうなずきで理解していることを表現させる。（ 他者理解 ）
	クラスメイトやALTに自己紹介をする【外国語活動】 ☐ 学習した自己紹介の表現を使い、クラスメイトに自己紹介をする。 ☆ I'm (Name). I like (rabbits / red / bananas / soccer). ☐ 好きなものや嫌いなものについて尋ねたり答えたりする。 ☆ What (animal / color / fruit / sport) do you like? ☆ I don't like ~. Do you like ~? ☐ 英語で伝える楽しさや自分を理解してもらえた喜びを味わわせるため、会話でわかったことを書き込むワークシートを用意する。 ☐ 自己存在感を高めるため、うなずいたり単語を繰り返したりして、聞き手が理解していることを表現させる。 ☐ 自分を理解してもらえた経験から、他の人のよい部分に気付くことの大切さについて話をする。		
5 月	道徳の時間で思いやりの心について考える ○読み物資料「最後のおくり物」を読み、誰に対しても思いやりの心をもつことの大切さについて話し合う。 特別活動で運動会の準備をする ○運動会のクラス応援を考える。 ○運動会の準備をする。		☐ 思いやりの心をもつことが、好ましい 人間関係 を育むことにつながることに触れる。 ☐ 全員が一致団結し、クラスを盛り上げるための応援であることを確認する。 ☐ 協力して活動できるよう、役割を分担するなどの工夫をさせる。

人格の成長を援助する

1 年生を迎える会（4 月）

キーワード： 自発的・自治的 自尊感情 他者理解

人格の成長を援助するため、子どもたちに自分の役割や責任を自覚させ、自発的・自治的な活動を通して、充実感や達成感を味わうことができるよう指導します。

異学年の交流活動を通し、6 年生としての役割や責任を果たすことや、児童会において主体的に活動することを通し、自己存在感や自尊感情を育むことにより、人格の成長を援助します。

活動を振り返る際には、自己理解や他者理解を通して自分の成長を実感させることが大切です。

対 象	第 6 学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要	□指導のポイント	
4 月	児童会活動で企画する ○代表委員会を中心に、「1 年生を迎える会」を企画する。	□全ての 1 年生が楽しめる内容となるよう考えさせる。 □「児童会だより」には図などを入れ、1 年生が理解しやすいよう配慮する。	
	学級会で内容を決定する ○「1 年生を迎える会」の意義を理解し、代表委員会で決定した内容を具体化する。 ○グループに分かれ、それぞれのグループで実施するレクリエーションの内容を考える。	□一人一人が役割を果たすことの大切さを理解し、 自発的・自治的 に活動できるよう、係を細分化する。 □1 年生の児童が楽しめるよう、果たすべき役割は何かを考えさせる。	
	「1 年生を迎える会」を実施する【特別活動】		
	○1 年生がそれぞれのレクリエーションに参加し、6 年生のお世話のもとでレクリエーションを楽しませるようにする。	□ルールが分からない児童やグループに馴染めない児童がいないかを確認する。 □6 年生は 自発的・自治的 に行動するよう指導する。	
《活動例 1》○×クイズ ◇ ○○小学校は 10 年前に建てられた、○か×か？ ◇ 担任の○○先生の趣味は将棋である、○か×か？ ◇ 給食にグラタンが出る、○か×か？		《活動例 2》肩もみゲーム ① 1 年生が円になって椅子に座り、その外側に 6 年生が立って並ぶ。 ② 1 年生と 6 年生のペアで自己紹介をし、じゃんけんをする。 ③ 勝った方が椅子に座り、負けた方は肩をもんであげる。	
5 月	学級会で振り返る ○「1 年生を迎える会」について、集会の内容がふさわしかったかどうかを個人で振り返り、その後全体で話し合う。 ○自分が協力できたところ、友達の活動のよかったところをグループで話し合う。	□全ての 1 年生が楽しめる内容だったかどうか、集会の内容について反省する。 □他者から承認されることをきっかけに 自尊感情 を高めさせ、相手を認めることの大切さ（ 他者理解 ）について指導する。	

自己理解を深めさせる

なかよし班遠足（6月）

キーワード： リーダーとしての自覚 他者理解 自己理解

特別活動や朝の会、道徳の時間において、学級や学校生活の中で自己を生かそうとする態度を養い、自分のよさや可能性に気付くなど、自己理解を深めさせます。
学校行事だけでなく、その前後の児童会活動や学級活動等において、クラスや異学年の仲間との関わりを通して気付いたことなどを、考えたり発表し合ったりし、一人一人の自己理解を深めさせることが大切です。

対 象	第 6 学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要	□指導のポイント	
4 月	特別活動でなかよし班を編成する ○クラスを班に分け、1 年生から 6 年生混合の「なかよし班」を編成する。 ○各班の 6 年生の中で、リーダーを決定する。 ○リーダーとしての個人目標を考える。 朝の活動で交流活動をする ○なかよし班では、6 年生がリーダーとなり、年間を通した交流活動を行う。 ○年度初めは、名前を覚える活動やゲーム等、児童同士の触れ合いが多い活動を行う。	□リーダーとしての自覚を深めさせるため、仲良く活動するためには何が大切か、6 年生として何ができるのかを話し合わせる。 □班活動を運営する上で、自分のよさや足りないところを一人一人に考えさせる。 □各班の主体的な活動となるよう、担当教師は各班のリーダーを中心に指導をする。 □各班の 6 年生は、リーダーとしての自覚を深められるよう、一人一人に対応した指導を心掛ける。	
6 月	なかよし班で遠足を実施する 【特別活動】 ○各班で行動することを主体とした遠足を実施する。 ○なかよし班ごとに企画したレクリエーションを実施し、交流を深める。 ○レクリエーションの中で、おやつタイムを設ける。 ○昼食を一緒にとり、昼食後は学級で行動する。 □6 年生にリーダーとしての自覚を高めさせるとともに、各班の自主的な活動をとおり、仲間意識を高められるよう指導する。 □各班の活動を観察し、支援の必要な班にはリーダーに声を掛ける。上手に運営できている班については、リーダーに自信をもたせるような声掛けをする。		
8 月	20 分休みで校内オリンピックを実施する ○児童会の企画・運営による、校内オリンピックを開催する。 ○なかよし班で、競技に参加する。 特別活動で振り返る ○なかよし班活動を振り返り、気付いたことを一人一人が発表する。	□班員同士助け合い、協力することの大切さを味わわせることで、リーダーとしての充実感を感じさせるようにする。 □他者理解や自己理解を深めさせるため、各班や個人の活動を振り返らせ、うまくいったことや改善が必要ないことを考えさせる。	

生活によく適応させる

1 学期を振り返ろう（7月）

キーワード： 自己有用感 自己決定 自己理解

長期休業前は、今後の生活によく適応させるため、今までの生活を振り返り、学習や生活の点検をさせるよい機会です。

日々の授業での取組を振り返り、主体的に取り組んだことや改善が必要なことを明らかにし、達成感や向上心を高めるとともに、特別活動を中心として学級や自分の生活上の問題についても振り返らせ、自己理解を深めさせます。

学習や生活上の問題を改善するため、夏季休業をどのように充実させたらよいかを子どもたちに考えさせる際には、自己決定を促し、主体的に取り組もうとする態度を養うことが大切です。

対 象	第 4 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
4 月 ～ 6 月	毎日の授業で主体的に学習に取り組む ○知識や技能を活用し、主体的に学習に取り組む。 ○調べ学習などの成果物や表現活動の作品を掲示する。 児童会活動で活動の成果を保存する ○児童会の各委員会の活動の成果を、ポスターにして掲示したり、活動の内容をポートフォリオで保存したりする。		□児童に 自己有用感 をもたせるため、主体的な取組をほめたり、活動に困難を感じる児童を支援したりする。 □児童に達成感を味わわせるため、作品等を掲示し、児童の学びの過程を視覚的に捉えることができるよう工夫する。 □活動したことを振り返らせるとともに、今後の活動の見通しを持たせるよう指導する。
7 月	学級会で 1 学期を振り返る【特別活動】 ○児童それぞれが自分の生活を振り返り、よかったところと改善するところをまとめる。 ○学級としての 1 学期を振り返り、学級の改善について話し合う。 ○よりよい学級生活のために一人一人に何ができるかを考え、グループで交流する。 ○学習や生活を改善するために、夏季休業中に取り組みたいことを考える。		
8 月～	学級活動で 2 学期の生活について考える ○1 学期の個人反省や学級反省を基に、2 学期の個人の生活目標やクラス目標について話し合う。		□取組のイメージがもてるよう、具体的な目標を設定させる。

好ましい人間関係を育てる

学芸会を成功させよう（9月）

キーワード： 人間関係 自己有用感

異学年が交流することにより相手の立場を考えさせたり、自己有用感を感じさせたりすることができます。学校行事などにおける異学年の児童による交流を通して、相手のよさを積極的に見つけ、互いに認め合いながら協力することで、好ましい人間関係を築こうとする態度を養います。学芸会のような全校で取り組む活動では、様々な人との交流を通して、互いに努力を認めながら協力するとともに、相手を思いやる心を育むことが大切です。

対 象	第 6 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 道徳の時間
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
8 月	道徳の時間で互いの考えを交流する ○「相手の立場に立って親切に」（「私たちの道徳」）を活用し、心と行動についてクラスで考えを交流する。		□今まで受け取った思いやりを振り返らせ、相手の立場に立って考えることの大切さや難しさについて考えさせる。
9 月	下級生と協力した学芸会を企画する【特別活動】 ○下級生の学級と縦割り編成し、上級生と下級生の混合のグループで活動する。 ○下級生のときに上級生にしてもらって嬉しかったことや、上級生としてやってあげたいことを話し合う。 ○下級生と一緒にできる学芸会での発表についてクラスで考える。 ○学芸会を成功させるためには、下級生にどのようなサポートが必要かを話し合う。 ○役割分担を決め、必要な準備を考える。 ○活動のめあてを話し合って決める。		
10月	学芸会で下級生と協力する ○下級生と協力して学芸会を実施する。 ○それぞれの役割を果たす。 学級会で学芸会の振り返りをする ○学芸会のよかったところや改善するところを個人で振り返る。 ○下級生と活動することでよかったことや困ったこと、友達や下級生のがんばったところなどについて、学級で意見交換する。		□下級生のお世話について支援する。 □学芸会での役割を果たすことについて支援する。 □ 自己有用感 を高めるため、上級生としての役割を果たしている児童に対して、前向きなフィードバックをする。 □ 自己有用感 をもてるよう、活動のよい点について児童同士が称賛し合えるよう指導する。

自己理解を深めさせる

自分のよいところを伸ばそう（11月）

キーワード： 自己理解 よりよい人間関係 他者理解

長期休業前は、改めて自分の特徴を見つめ直すとともによいところを伸ばし、気になるところを改めていこうとする態度を育てていく時期です。この時期に「なりたい自分像」を描かせ、自分の個性を伸ばしていくきっかけづくりをさせるとともに、自己有用感を高めさせていくことが大切です。道徳の時間を中心として「自分のよさの発見」や「よさの伸長」を望む態度の育成を通して、自己理解や他者に対する認識を深めさせます。

対 象	第 4 学年	教育課程上の位置付け	道徳の時間 学級活動 社会科 国語科
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
10 月	道徳の時間で自分の長所と短所について考える ○「自分のよいところ、気になるところはどこだろう」（「私たちの道徳」）を活用し、自分の長所と短所について考える。 学級活動でよりよい人間関係づくりについて話し合う ○学級でよりよい人間関係を築くため、一人一人がどのような態度をとるべきかについて話し合う。		☐ 自己理解が深まるよう、自分の特徴について考えさせる。 ☐ 克服すべき短所に気付くことができるよう、学級内でトラブルとなる原因について話し合わせる。
11 月	自分のよいところについて話し合う【道徳の時間】 ○自分のよいところをみんなが認めてくれてうれしかった経験についてグループ内で伝え合う。 ○「うれしく思えた日から」（私たちの道徳）を読み、自分のよいところを伸ばそうと努力する主人公の思いについて考え、グループ内で話し合う。 ○「自分のよいところを伸ばして」（私たちの道徳）を活用し、自分のよいところをどのように伸ばしていくかについて、グループ内で話し合い、その後学級全体で共有する。 ○学級でよりよい人間関係を築くため、グループ内の友達のよいところを互いに見つけ合い、その後学級全体で共有する。		
12 月	道徳の時間で各自のよいところの伸ばし方について共有する ○前回の道徳の時間で話し合った自分のよいところの伸ばし方について、各自が実践していることを発表し合う。 ○他者のよいところの伸ばし方を参考に、改めて自分のよいところの伸ばし方について考え、ワークシートに記入する。 国語科の授業で先人の生き方に触れる ○「読書発表会をしよう」において伝記を読み、先人の生き方について学ぶとともに、友達に登場人物の生き様を紹介する。		☐ 学級全体が向上心をもって取り組もうとする雰囲気となるよう、お互いのよいところを伸ばす方法について共有させる。 ☐ 将来における目標をもち、自己理解の大切さを理解することができるよう、自己の生き方と先人の生き方を重ね合わせる。

人格の成長を援助する

自分の成長を振り返ろう（2月）

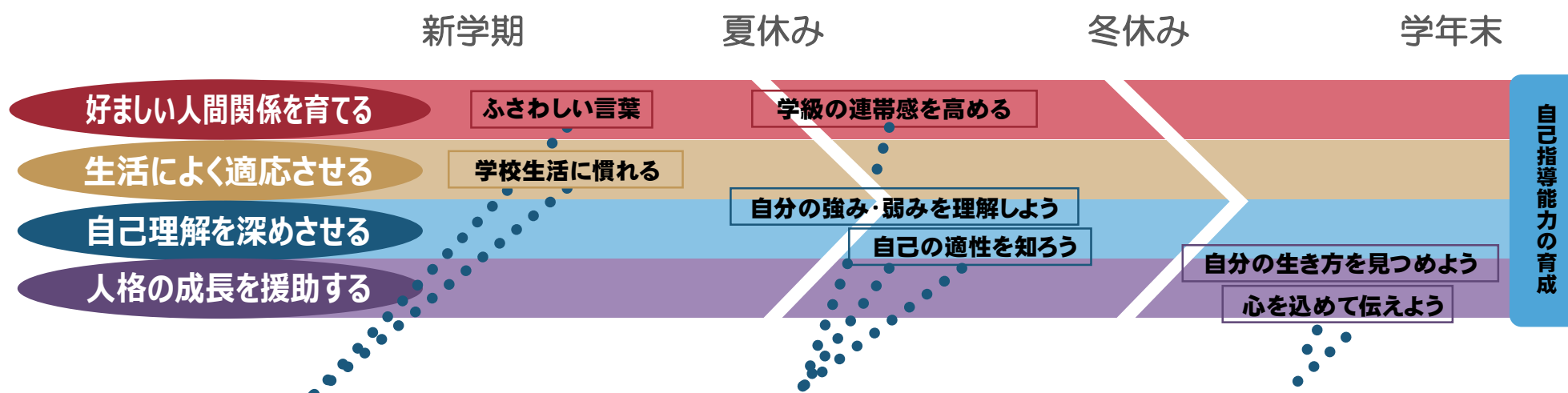
キーワード： 自己有用感 自己理解 達成感・成就感

2年生の学年末は、小学校生活2年間を振り返る活動により、自分の成長を感じるとともに自己有用感を高めるよい機会となります。

生活科における「大きくなったことをまとめる」活動や、道徳の時間における「自分の生活を振り返る」活動を通して、自分でできるようになったことや役割が増えたことなどを自覚させることで自己有用感を高めることができます。向上心をもって、3年生に向けて意欲的に学校生活を送ることができるよう、人格の成長を援助することが大切です。

対 象	第2学年	教育課程上の位置付け	生活科 道徳の時間 国語科 図画工作科 特別活動
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導上のポイント
2月	道徳の時間で自分の役割について振り返る ○「自分でやることはしっかりと」「わたしたちの道徳」を活用し、自分がこれまで頑張ってきたことや学級での自分の役割について話し合う。 図画工作でおもちゃ作りを教える ○新入生1日入学の際、「うごくおもちゃ」の作り方を幼児に教える。		□児童に 自己有用感 を感じさせ、実践意欲を高めるために、これまでの生活を振り返らせ、自分の役割を果たせるようになったことを自覚させる。 □幼児におもちゃ作りを教える活動を通して、どのように教えると相手が喜ぶのかを考えさせる。
2月	成長したことをまとめる【生活科】 ○「逆上がりが初めてできた時、友達と一緒に喜んでくれた」、「上級生みたいにほうきを上手に使うなど、できるようになったことを交流する。 ○「わたし物語」を作成する手順について知る。 ○家庭生活で成長したことについて保護者にインタビューをしたり、幼児や1年生の頃の様子について当時の先生にインタビューしたりする。 ○「わたし物語」を作成する。 ○作成に協力してくれた方や今までの成長に携わった方に感謝の手紙を書く。 ○3年生で頑張りたいことをまとめ、発表する。 □過去の自分と現在の自分との比較により、成長を実感（自己理解）させ、自分の成長の過程を調べたいという意欲を湧かせる。 □児童のプライバシーの保護や家族構成に配慮する。 □電話のかけ方やインタビューの仕方など、生活上必要な技能を身に付けさせる。 □「わたし物語」の作成や「3年生で頑張りたいことの発表」を通して、自分の成長や役割が増えたことに気付かせ、自己有用感を味わわせるとともに、さらなる成長を願う気持ちを育てられるよう工夫する。		
3月	国語科で作文を書く ○「1年のできごとをふり返って」において、思い出に残っていることを作文に書いたり、友達の発表を聞いて、友達の成長を知ったりする。 特別活動で身体の成長を確認する ○学年末の身体測定を通して、心身の成長について理解する。		□活動を通して、自分の成長を振り返られるよう、生活科の「わたし物語」を参考にさせる。 □作文集を作成することで、 達成感 や 成就感 を味わわせる。 □学級担任や養護教諭の説話を聞くことを通して自分の成長を自覚させ、 自己理解 を深めるとともに、自信をもたせるようにする。

3 指導計画例 中学校



新学期に

新学期は、新しい仲間や先生と出会い、好ましい人間関係を育てる期間です。相手の立場を理解しながら互いを大切にすることができるよう指導します。

また、学校種や学年が変わったり、新しい集団となったりすることによって、今までとは違った役割や立場が期待されます。新しい一年を充実させるため、生活によく適応させることが必要になる時期です。ガイダンスの機能を充実させるなどして、学校生活の変化に自発的に適応させることが大切です。

夏季休業の前後に

夏季休業前後は、職場体験活動で仕事を体験したり、3年生は部活動を引退し卒業後の進路を決定したりする時期です。将来の夢や職業を思い描いたり、今後の学校生活に対する目標を立てたりする際には、自己の個性や自分自身に関わる状況を把握させるなど、自己理解を深めさせることが大切です。

また、クラスの人間関係が固定化する夏季休業の時期に、意図的に生徒同士が触れ合う機会を設定し、友達の新たな面を発見するなどして、好ましい人間関係を築いていくことが大切です。

学年末に向けて

学年末は、3年生にとっても1、2年生にとっても、高等学校への進学や上級学年への進級の節目として自分の成長を振り返らせ、生き方を考えさせる重要な時期であり、生徒の人格の成長を援助する機会となります。他の人たちから学ぶ態度を積極的に認め合い、これからの自分の人生について考えを深めさせ、個の成長を援助していくことが大切です。

好ましい人間関係を育てる

ふさわしい言葉（4月）

キーワード： コミュニケーション 人間関係 言語活動の充実

集団活動を通して、人間的な触れ合いや互いの大切さを経験し、相手を思いやる気持ちや互いを大切にする心が育つように指導します。

国語科や特別活動において、場面や立場に応じた言葉の使い方について理解を深め、敬語に関心を持つとともに、総合的な学習の時間において、場や相手に応じた適切な人間関係を築こうとする態度を養います。

コミュニケーションの基盤となる言語の学習の際、好ましい人間関係を築くために役立つことや具体的なその使用場面を想起させることが大切です。

対 象	第 3 学年	教育課程上の位置付け	国語科 特別活動 総合的な学習の時間
指導者	学級担任、教科担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
4 月	学級会で「言葉」の役割について話し合う ○学級内の好ましい人間関係を築くために、「言葉」の役割について考え、話し合う。 国語の授業で「言葉」の力について考える ○心に残る一言、うれしかった言葉などから、「言葉」のもつ力について考える。 ○自分の考えを発表する。		□人と接する時にどのような言葉を使うと円滑にコミュニケーションを図ることができるか考えるよう指導する。
	場にふさわしい言葉を考える【国語科】 ○敬語の種類や役割について考える。 ○相手や場に応じた敬語について考える。 ○場面（「職員室」「友達の家」等）と役割（「先生」「母親」等）を設定するカードを作成し、その場面や役割に応じた会話をグループで考える。 ○他のグループが作成したカードと交換し、その場面や役割でロールプレイングを行う。 □場の状況や相手の様子に応じて話すための表現について自分の生活と関連付けて考えさせる。 □敬語を使うことで、相手がどのように感じるのかについて考えさせ、敬語が好ましい人間関係を築いたり深めたりするために役立つことを理解させる。 □他のグループと交流することで、新たな考え方に気付かせ、自分の考えが深まるよう指導する。		
5 月	総合的な学習の時間でコミュニケーションのとり方などを身に付ける ○職場体験学習の事前学習において、自分が訪問する職種について調べたり、仕事をする上でどのような力が必要かを話し合ったりする。 ○地域で働く人たちと自分たちとのつながりについて考える。 ○職場体験学習において、適切な人間関係を築くための言動について考える。		□職場体験学習につながりを持たせ、継続的に学習を行うことで、自己の成長を実感できるような場面を工夫し、学習意欲の向上を図る。 □国語科等で学習した表現を活用できるよう既習事項を想起させる。 □教育活動全体を通じて、言語活動の充実を図る。

生活によく適応させる

学校生活に慣れる（４月）

キーワード： 多面的・多角的 課題解決

中学校に進学すると環境が大きく変わるため、生活によく適応させる必要があります。ガイダンスの機能を充実させるなどして、学校生活の変化に自発的に適応させることが大切です。

学級活動や道徳の時間等において、生徒が自分にふさわしい勉強方法を見いだす活動を通して、自分の生活を見直すとともに、明確な目標や計画を定め、新しい学校生活への適応を促します。

対 象	第 1 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 道徳の時間 各教科等
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
2 月	体験入学でイメージをつかむ ○1日体験入学においてガイダンスや体験授業を受け、中学校における学習のイメージをもつ。		□小学校との違いがどのようなものかが理解できるよう活動を絞り、丁寧な指導となるよう配慮する。
4 月	道徳の時間で話し合いをする ○「目標を目指しやり抜く強い意志を」（私たちの道徳）を読み、目標をもつことの大切さについて話し合う。		□個々にあった目標となるように、主体的に取り組めるよう自主的に目標を設定させるとともに、自分の課題についても考えさせる。
	自分にふさわしい勉強方法を考えよう【特別活動】		
	○4人グループに分かれて、各グループに1人ずつ3年生が入る。 ○3年生から、予習・復習の進め方や授業の受け方、家庭学習の仕方等について説明を受ける。 ○先輩に質問したり、互いの考えをグループで交流したりするなどして、自分の学習の進め方について考える。		□グループが打ち解けられるよう、簡単な自己紹介ゲームなどを行い、一人一人の多様性を認めるような雰囲気づくりを心掛ける。 □3年生には、具体的な説明のための準備をさせ、工夫した発表をするよう事前に確認しておく。 □目標設定のために、ブレインストーミングなどの方法で互いの意見を交流させる。
	各教科等で目標を明確化する ○各教科の学習の進め方について、教科担当からアドバイスをもらいながら、各教科における各自の目標を明確にする。 教育相談で話をする ○学習面や生活面での不安や悩みを相談する場を設定し、学校生活をスムーズに始められるようにする。 生徒会活動で自主的に活動する ○学習委員が中心となり、家庭学習点検や忘れ物点検などを行う。		□生徒を 多面的・多角的 に理解するために、担任を中心とした教科担当等との連携体制を構築する。 □協同学習を取り入れ、生徒が話し合う機会を数多く設定するなど 課題解決 に向けた取組を工夫する。 □まずは、受容と傾聴の姿勢で生徒の思いや考え、悩みなどを聴くようにする。 □教職員間での情報共有に努める。 □学年や学校全体で学習に向かう雰囲気が生まれるよう支援する。

自己理解を深めさせる

自分の強み・弱みを理解しよう（6月）

キーワード： 自己理解 自己肯定感 進路意識

中学校3年生の夏季休業の前後は、部活動を引退し、新たな目標づくりが大切となる時期です。この時期の特別活動等において、進路の決定に向けて、エゴグラムを用いた自己分析学習を通して、自分の強みや弱みを知り、自ら進路に関わる悩みや不安を解決する糸口を発見させるとともに、事後の活動において、教育相談の機能を生かし、進路選択の明確化と進路実現に向けて自主的・実践的に取り組む態度を育てることが重要です。

対 象	第3学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
4月	学級活動でアンケートをとり、事前に面談をする ○進路希望や進路に対する考え方だけでなく、現在の生活・学習面の状況や、自己実現や進路実現に向けて改善が必要な課題など、自分自身に関する状況を把握するため、進路希望アンケートに回答する。 ○事前の面談を行い、学級担任等と、進路希望アンケートに書いた内容や悩み、不安等について話す。		□保護者の意見等も記入する項目を設けるなどして、自分自身に関する状況を的確に把握させるよう工夫する。 □進路希望アンケートを基に面談を行い、適性・興味・関心、現在の意欲及び目標などを多面的・多角的に理解し面談する。
6月	エゴグラム（交流分析に基づく性格診断テスト）を実施する【特別活動】 エゴグラムの実施手順 1 学習の進め方と意義について理解を深めるため、エゴグラムを用いた自己分析学習の概要について説明を聞く。 2 学級担任の質問に対し、ワークシートに回答を記入して自己分析を行い、結果について自己評価し、他者と交流する。 3 分析結果から見える自己の現状と課題等についてまとめる。また、自己実現や進路実現に向けた課題について客観的に理解し、解決のために必要なことを考える。		
8月	学級活動、課外活動で結果を見直す ○事後の面談において、自分自身の強み・弱みについて確認し、自己実現や進路実現のためにどんな課題を解決すればよいか、学級担任等に相談する。 ○数か月後に再度エゴグラムを実施して、前回の分析結果と比較し、自分の強みの伸長や弱みの克服を確認するとともに、生活・学習面における課題の改善状況を認識し、進路実現に向けて具体的にすべきことを確認する。		□教育相談の機能を生かし、生徒のよさを認め、 自己肯定感 を高めるとともに、 進路意識 を高め自己実現に向けて改善すべき課題と解決策について生徒自身に考えさせ、保護者にも理解を促す。

好ましい人間関係を育てる

学級の連帯感を高める（8月）

キーワード： 他者理解 所属意識 リーダーとしての自覚

生徒同士で協力する意識を育むことで、学級への所属感や連帯感を高めるとともに、好ましい人間関係を築こうとする態度を養い、自主的・実践的に取り組む学級風土を醸成します。

学校での基礎的な生活の場である学級を基盤として行われる活動を通して、集団の一員として役割と責任を果たし、互いに尊重し、よさを認め発揮し合えるような学級づくりをしていくことで、開かれた人間関係を育成します。

対 象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要	□指導のポイント	
7 月	学級でグループ協議する ○コミュニケーションにおける言葉の大切さを学ぶため、アサーショントレーニングに取り組む。 学年でコミュニケーションを図る ○長期休業を利用して希望者はピア・サポート研修会を受講する。 ○コミュニケーションの図り方をロールプレイングで体験する。	□普段使っている言葉で、周囲の人がどのような気持ちになるのかを実感させる。 □自分のよさや足りないところを一人一人に考えさせるようにする。 □生徒の主体的な活動となるようにきめ細やかに観察をし、生徒の状況を把握する。 □生徒一人一人がリーダーとしての自覚を深められるよう丁寧な指導を心掛ける。	
8 月	クラス会議を実施する【特別活動】 ○班ごとにアイスブレイクを行い、学級の課題に対してグループ協議を行う。 ○学級の課題やクラスメイトの悩みの解決策を学級全体で話し合う。 《活動例》 いいとこ探し（アイスブレイク） ① 4人グループになり、各自の「いいとこカード」を他のグループに渡す。 ② グループで、他の子の「いいとこカード」に、思いつくいいところを書き込む。 ③ 教室に掲示して、みんなで共有する。 《課題設定例》 みんなで話し合おう ✧ クラスとして、学校行事に向けての意識は統一されているか？ ✧ 一人一人にとって居心地のよいクラスになっているか？ ✧ 自分の進路目標について		
8 月	日々の授業で意見交流する ○一人一人の意見を尊重しながらそれぞれの授業の中で、積極的な意見交換を行う。 学級で勉強を教え合う ○仲間の考えのよさに気付きながら、校内学力コンクールに向けて勉強を教え合う。	□発問の意図から外れている発言であっても、肯定的に捉えられるようなやり取りを行い、所属意識を高められるようにする。 □互いの意見を取り入れ、個々の理解が深まるような発問を心掛ける。	

自己理解を深めさせる

自己の適性を知ろう（10月）

キーワード： キャリア発達 人間関係

総合的な学習の時間や特別活動等において、地域との交流を位置付けた教育活動を通し、様々な年齢、立場の人と関わったり、実際に職業を経験したりすることで、自己についての多様な気づきや発見につながり、自己の適性について理解を深めます。

「職場体験活動」を通し、様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考えるとともに、自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高めることで、自己理解が深まるようにすることが大切です。

対 象	第3学年	教育課程上の位置付け	特別活動 技術・家庭科 社会科 総合的な学習の時間
指導者	学級担任、教科担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
9月	社会（公民的分野）の授業で現代社会の諸問題、見方や考え方を学ぶ ○「私たちと現代社会」において、現代社会の諸問題について調べたり、現代社会の見方や考え方についてワークショップを通して考える。 総合的な学習の時間において調べ学習を行う ○インターネット等で訪問先の職種や職場について調べ、自分の興味のある内容をまとめることで、当日の質問内容を明確にする。 ○職業に関する調べ学習や職場体験学習のねらいを踏まえ、自己の適性や課題を模索し、自己の強みや弱み等を考える。		□社会の諸問題等を理解させ、社会の一員として自覚を深めることができるよう、 キャリア発達 を促す工夫をする。 □将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高めるよう、適切な声掛けをする。
10月	職場体験活動を実施する【特別活動】 取材活動と発表 1 事前に考えてきた質問事項等に基づき、訪問先の職場の人取材する。 2 大人の意見を参考にしながら、体験した職業と自己の適性を照らし合わせるとともに、体験を通して感じたことを発表する。		
	技術・家庭科の授業で情報機器を活用し、体験をまとめる ○プレゼンテーションソフトを活用し、職場体験学習で学んだことや感じたことをまとめる。 総合的な学習の時間で発表する ○職場体験発表会において、職場体験実習の成果を発表する。		□生徒と事業所とで事前に情報を共有し、雰囲気や和らげる。 □世代の違う人と接することで、コミュニケーション力を育成し 人間関係 を深める。 □日誌の記入を通して、自己の表現力を高めさせるとともに、自己有用感を高め、達成感をもてるよう工夫する。 □自己表現力を高めるとともに、生徒間での体験の共有化により、進路意識をさらに高め、自己の適性を理解し、自分の将来の姿を思い描くきっかけとなるように工夫する。

人格の成長を援助する

自分の生き方を見つめよう（1月）

キーワード： 進路意識 自己理解

外国語科や道徳の時間、総合的な学習の時間等において、職業や生き方について考える学習を通して、これまでの自分の様子を振り返り、第2学年の残りの生活や第3学年に向けて、自分の生き方や人生について考える活動を充実させることで、自分を知り、他に学ぶ重要な機会とし、人格の成長への援助を図ります。

他の人の人生や考え方と、自分の人生を照らし合わせることで、生き方について広く深く考えるよう促すことが大切です。

対 象	第2学年	教育課程上の位置付け	外国語科 道徳の時間 総合的な学習の時間
指導者	教科担任、学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
1月	総合的な学習の時間で職業や自己の将来に関する学習を行う ○自己の将来に関する職業の調べ学習や講演会を行う。 ○職場体験活動を行う。 ○職場体験活動を通して、分かったことや今後の自分の生き方、勤労の意義について、自分の考えをまとめる。 ○職場体験発表会で発表、交流する。 ○一連の活動を振り返り、次の課題を設定する。		□講演会では、複数の外部講師を招聘し、興味・関心に応じた人の話を聞くよう生徒が選択し、進路意識の向上を図る。 □職業や体験の紹介に偏らないよう、自己の考えについてもまとめ、自己理解を促す。 □次の単元「地域づくり提案」へ向けて、これまでの学習の成果を振り返り、新しい課題を考えるよう促す。
	他の人の生き方について学ぶことを通して、私のモットーを考える【外国語科】 ○信念をもって生きた人の物語（目の不自由なテノール歌手である新垣勉さんの物語「Try to Be the Only One」）を読む。 ○物語を読んで、彼の考え方やモットーについて理解する。 ○自分の今後の生き方や人生に対する考えをワークシートにまとめる。 ○ワークシートの内容を基に、英語で互いの考えをグループで交流する。 ○「私のモットー」を英語でまとめる。 ★My Motto★ <i>Be positive!</i> Reason: I want to live without any regrets, so I will... ○まとめとして、これからも、機会ある毎に主体的に自己の進路や生き方について考えるよう語り掛ける。		
2月	道徳の時間で考えを深める ○「自分を見つめ個性を伸ばす」（「私たちの道徳」）を資料にして、自分らしさについて考える。 面接（教育相談）週間で現在の考えを伝える ○今後の自分の生き方や人生について、現在考えていることを自分の言葉で伝える。		□充実した人間としての生き方について考える過程で、自分のよさや個性を発揮する生き方に触れ、自己理解や進路意識を促す。 □学校生活や進路について話を聞く際には、直近の生活はもとより、将来を見据えた視点をもつよう進路意識を促す。

人格の成長を援助する

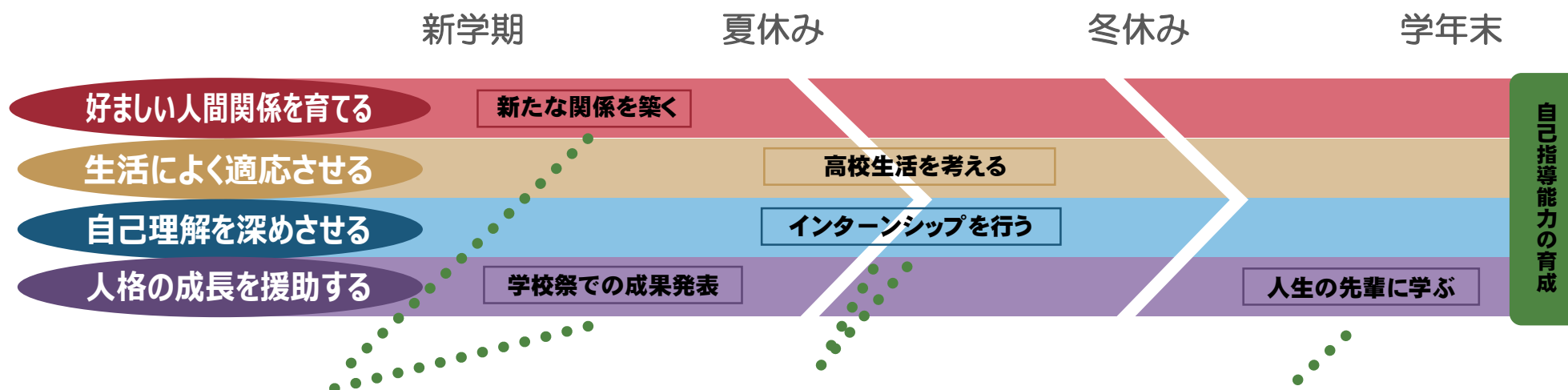
心を込めて伝えよう（3月）

キーワード： 他者理解 自己理解

学年末は、1年間を振り返り、さらに自己を一層伸長させようとする意欲が高まる時期です。
特別活動や道徳の時間において、自他の成長を確認したり、将来の自分について見つめたりする活動を通して、人格の成長への援助を図ることができます。
これまで自分を支えてくれた人たちへ感謝の気持ちをもちながら、1年間の活動を振り返り、自分の成長を見つめることができるよう支援することが大切です。

対 象	第 2 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 道徳の時間
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
2 月	特別活動で送別のテーマを決定する ○代表委員会で、卒業生への感謝や祝福の気持ちを表す「送別のテーマ」を決定し、そのテーマに沿った装飾物の作成や集会の取組を考える。 ○各委員会で卒業式を迎えるにあたっての事前の準備を行う。 学級活動でありがとうメッセージを作成する ○「送別のテーマ」に沿った装飾物や「ありがとうメッセージ」カードを作成する。		□一人一人が活動に込められた思いや意味を理解できるよう指導する。 □一つの節目を迎えるに当たり、これまでの学校生活の中での活動等を振り返らせながら、自分たちの歩みを確認させるようにする。 □3年生への感謝の思いを考えさせながら、活動させる。
3 月	卒業生に心を込めて「ありがとう」を伝える【特別活動】 ○卒業生に対し「ありがとうメッセージ」を発表する。 ○メッセージを受けた感想や卒業するに当たっての後輩への思いを、卒業生から受け取る。 ○発表後、「ありがとう」メッセージを廊下に掲示する。 □他者理解を深めさせるため、卒業を迎えた3年生の気持ちを想像しながら発表をさせる。 □卒業生の姿から、来年の自分の姿を想像し、上級生へと成長していくことを実感させる。 道徳の時間で自分の生き方について考える ○「山中伸弥さんのメッセージ」（「私たちの道徳」）を読み、個性を伸ばしながら充実した生き方を追求することについて話し合う。 特別活動で1年後の自分について考える ○卒業生から得た思いと、1年後の「卒業する自分」をテーマに作文を書き、発表する。 □自分の中にある「良いところ」「改めたいところ」を考えさせ、より改善していこうとする態度を育成する。 □卒業に向けての進路選択とその後の自分の生き方について考えさせ、卒業を迎える自分の姿、さらには自分の将来像をイメージさせる。 □将来の夢や目標を明確にすることにより自己理解を深めさせる。 □多様な価値にふれることにより、自己の生き方についての考えを深めさせる。		

4 指導計画例 高等学校



学校行事の前後に

学校行事は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を育てる良い機会となります。生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験させることが大切です。

同時に、行事を通して、人格の成長を援助する機会でもあります。自律的な集団行動を通して望ましい体験を得ることにより、自己の在り方や生き方についての自覚を深めさせることが大切です。

夏季休業の前後に

夏季休業前には、1学期の振り返りの中で、集団の一員として、よりよい集団生活を送るための自己の課題について考えさせ、生活によく適応させる必要があります。

また、夏季休業は、学習や進路に関して興味・関心の分野を広げたり深めたりする良い期間です。そのためには、夏季休業の前には、自己の個性や適性、長所と短所、興味や関心の動向などを把握させたり確認させたりするなどして、自己理解を深めさせることが大切です。

新年度に向けて

学年末においては、1年間の学びを振り返らせたり、自己の将来を見つめさせたりすることで、新たな目標や課題について新年度から取り組もうとする意欲を高めさせることが大切です。

また、自己の在り方や生き方について主体的に考えさせることにより、人格の成長を援助する良い機会とすることが大切です。

好ましい人間関係を育てる

新たな関係を築く（４月）

キーワード： 表現力 仲間意識 人間関係

中学校から入学したばかりの新入生にとっては、新たな人間関係づくりを行うこととなります。人と関わる力や自己表現力、他者への思いやりなど、好ましい人間関係を育てるために必要な資質や能力を、特別活動や総合的な学習の時間等の活動を通して、感じたり考えたりさせることが重要です。

宿泊研修等、平素と異なる生活環境の中での体験活動を通し、望ましい集団生活の在り方を考えることができるとともに、集団への帰属意識や連帯感を高め、公共の精神を養うなど、学校生活を通して新しい人間関係を築いていくことができます。

対 象	第 1 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等
指導者	学級担任、生徒会担当、教科担任		
時 期	○活動の概要	□指導のポイント	
4 月	HR 活動で関係をつくる ○新たな集団に対して安心感をもつための、エンカウンターエクササイズを行う。 生徒会活動等で宿泊研修の準備をする ○宿泊研修実行委員会を中心に、研修内容を立案したり運営方法を考えたりする。	 □生徒同士でコミュニケーションが図られるよう配慮する。 □状況を見ながら、グループの構成を随時変更するなどして、全ての生徒が自分を 表現する力 をもてるよう工夫する。 □生徒一人一人が存在感をもち、積極的に研修に参加できる内容となるよう考えさせる。	
	宿泊研修において人間関係を築く【特別活動】 ○宿泊研修実行委員会が中心となり、構成的グループエンカウターのエクササイズを行う。 ○学級内で討議する。 《学級討議題 1》学校祭の学級企画 ○ 学校祭の学級企画について討議する。 《学級討議題 2》クラス宣言 ○ 学級のスローガンについて話し合い、学校祭に向けた学級宣言を作成する。 ○学年全体で各学級の「学級宣言」を採択する。 □自分を表現したり、他者を理解したりすることにより、人間関係が次第に築かれていくことを気付くよう指導する。 □コミュニケーションを図ることが苦手な生徒への支援を行い、学級全体で仲間意識を醸成できるようにする。 □学校祭の成功に向けて、建設的な話し合いとなるよう、一人一人の生徒の様子を注意深く観察する。 □他の学級のことを認め合い、互いに切磋琢磨していくことの大切さを生徒に話す。		
5 月	HR 活動で振り返る ○宿泊研修の振り返りにおいて、各自で気付いたことや感想を書き、各自でまとめる。 ○各自の感想を基にグループや学級全体で話し合い、学校祭へ向けての計画などを立てる。 各教科で協力する ○授業の中で協働学習に取り組み、ペアやグループでの活動を行う。	 □学級全体で振り返りを共有するとともに、保護者へも積極的な情報発信を行い、学級の連帯感を高めていく。 □宿泊研修等を通して築いた 人間関係 を基に、今後の生徒への関わりの見通しをもつ。 □互いのことを認め合いながら学級全体のよりよい人間関係を構築できるよう指導方法を工夫し、各教科で情報共有する。	

生活によく適応させる

高校生活を考える（6月）

キーワード： 進路 在り方や生き方 適性

充実した高校生活を送るためには、卒業時の進路選択を含めて将来自分がどのように生きていくのかを考え、生活に適応させる必要があります。科目選択のガイダンスを充実させることにより、自分の進路について真剣に考え、判断し、決定する機会となり、日々の生活の在り方を自ら考えていくことになります。

また、自分の生活に向き合うことで、現在及び将来において人間としての在り方や生き方を考え、行動する能力や態度を養うことにもつながります。生徒に多様な考えをもたせるとともに、生徒が主体的に、自己の在り方や生き方を見つめることができるようにすることが大切です。

対 象	第 1 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等 総合的な学習の時間
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
6 月	HR活動でディスカッションをする ○グループやクラス全体で、高校としての生活の在り方や自分の進路目標について考えたり、ディスカッションしたりする。		□HR における落ち着いた雰囲気づくりの重要性を感じ取らせ、日常生活の充実が 進路 実現につながることを理解させる
	総合的な学習の時間で進路について考える ○ワークシート等を用いて、自己の在り方や生き方、進路について考える。		□学ぶことや働くこと、自己の 在り方や生き方 について具体的に考えさせる。
	科目選択のガイダンスを実施する【特別活動】 ○学年集会において、教科担当の教員から各科目の概要等の説明を聞く。 《活動例 1》系統別模擬授業 ○ 各系統の特徴的な授業を複数回体験する。 (例) 理系・・・物理基礎、地理 B など 文系・・・地学基礎、日本史 B など 《活動例 2》科目選択交流会 ○ 2、3年生の科目選択アドバイザーから、科目や系統について説明を聞いたり、質問したりする。 ○HR で自己の在り方や生き方、進路についてワークシートにまとめ、選択科目について考える。		
7 月	HR活動等で自己理解を深める ○職業適性検査の結果を踏まえ、自分の適性に合った進路について考えたり、職業についてインターネット等で調べたりする。		□調査結果等を基に、保護者と話し合う時間を十分設けることで、自分の 適性 や性格、興味・関心等を客観的、多面的に捉えさせるようにする。
	各教科等の活動で生活のリズムを見直す ○各教科の各自の目標の達成状況に基づき、学習や生活の習慣を見直す。		□必要に応じて個別に対応し、生徒一人一人の生活習慣の改善を支援する。

人格の成長を援助する

学校祭での成果発表（7月）

キーワード： コミュニケーション 人間関係 自己の役割や責任

学校祭において、仲間と協力しながら商品企画の発表をしたり、保護者や地域の方々と販売実習を通して交流したりすることで、生徒が社会的な資質や行動力を高めることができるように指導します。

望ましい集団活動を通して、他者との協働を図り、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、生徒が社会的な資質等を伸ばさせようとする態度を養うことで、自分を成長させようとする意欲を高めます。

他者との協働を通して、人間関係形成能力やコミュニケーション能力を育むとともに、自己決定の場面を設けて生徒の自主的な活動を認めるなどの支援が大切です。

対 象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等
指導者	学級担任、生徒会担当、教科担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
6 月	HR活動で話し合いをする ○学校祭のテーマや一人一人の役割を決める。 ○クラスの発表内容や一人一人の役割について話し合う。 生徒会活動で学校祭の計画を立てる ○代表委員会及び運営委員会を開催し、学校祭のテーマやルールなどを決める。 ○各クラスの意見や各委員会の活動を取り入れるなどして、学校全体で協力的な活動になるよう計画を立てる。 専門科目で発表や販売の準備をする ○学校祭における販売、発表の準備を行う。		□事前の準備において、他者の気持ちを考えた行動ができるよう、教育相談の手法に関するワークショップを取り入れるなどして、円滑にコミュニケーションを図ろうとする意識を高めさせる。 □HR通信の活用やHRでの話し合いを通して、全員の参加を促し、相互に高め合い、自己を磨く活動であるということを意識させるよう指導する。
7 月	学校祭で販売実習をする【特別活動】 ○各学年が日常の学習の成果を発表する。 【活動内容①専門科目の企画商品の販売】 ・ポスター作成や模擬店のPR活動を行う。 ・選択授業で生産した野菜や加工品を販売する。 ・地域の小学生と一緒に野菜の収穫体験を行う。 【活動内容②販売実習報告会】 ・実際に学校外で行った販売実習での学習の成果を模造紙にまとめ、会場に掲示する。 ・次年度の販売実習に向け、グループごとに商品企画についてのプレゼンテーションを行う。		□販売や収穫体験を通して、自分たちの学習が、地域・社会につながっているということを意識させる。 □生徒相互の好ましい人間関係を深めるため、一人一人が与えられた仕事に責任をもって取り組み、協力し合いながらまとめの活動をするよう指導する。 □集団の一員として仲間と協力して発表し、自己の役割や責任を果たすことにより、自己の成長につながることを意識させるよう指導する。
8 月	HR活動で振り返りを行う ○学校祭における振り返りを行い、クラス及び自己の成果について考える。 各教科で成果の振り返りを行う ○成果の振り返り及び平素の学習活動との関わりについて確認を行う。		□話し合いにおいて生徒同士が受容、傾聴に努め、個々の生徒のよさを認め合うよう指導する。 □平素の学習の積み重ねが大切であることを確認する。 □生徒が学習の成果や自らの成長を実感できるような振り返りの場を工夫し、学習意欲の向上を図る。

自己理解を深めさせる

インターンシップを行う（9月）

キーワード： 適性 自己理解

高校生活の中盤に差し掛かった時期には、就業体験活動やその準備を通して、自己の在り方や生き方や、社会の一員としての自己の関わり方を考えることが大切です。

インターンシップによって収集した情報を、社会への貢献や将来の方向性などの視点をもって分析することで、自己の在り方や生き方について考え、行動する能力を育成していきます。

対 象	第 2 学年	教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 特別活動
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要	□指導のポイント	
9 月	総合的な学習の時間で調べる ○インターンシップを行う職業の仕事内容について調べ、自分の適性や特技、長所等に目を向けながら、自分の職業観や勤労観をまとめる。	□産業・経済の動向に関する情報等、現実に応じた情報を収集させることで、自分のこととして捉えられるよう促す。 □生徒のニーズや適性に合ったインターンシップとなるよう、様々な職種の企業と連携を図る。 □職業に対する理解を深めるとともに、自己の適性を考えさせる。	
	総合的な学習の時間で交流する ○職業人講話を聞き、職業について自分の考えをまとめ、生徒同士で交流する。		
	調べた職業に関わるインターンシップを行う【総合的な学習の時間】 ○各事業所でインターンシップを行う。 ○礼儀・言葉遣い、電話対応などの実務的な業務等を確実に実践する。 ○各日、業務日誌を記入し、その日の感じたことなどをしっかりと記録する。 □実際の就業体験から、自己有用感や自己達成感が高められるよう活動の様子を観察し、適切な声掛けをする。 □保護者に対して、インターンシップの目的や生徒の活動内容などを伝え、子どもと将来のことを話す機会を提供する。		
10 月	HR活動で振り返る ○受入先のアンケートや業務日誌を基に、インターンシップで学んだことを振り返り、グループで意見交流する。	□成功体験や失敗体験なども含めて意見交流できるようにすることで仕事のやりがいなどを一人一人の生徒に考えさせる。 □今までの自分を振り返り、現在の自分についてじっくり考える機会とし、自己理解を深めるよう指導する。 □インターンシップの活動を共有化させたり、個々の進路意識を明確化させたりするなど、自分のことを見つめ直させる。 □質疑応答の場面を多く取り入れるなど、生徒が主体的に考えられるようガイダンスの形式を工夫する。	
	インターンシップ報告会で発表する ○代表者が全校生徒の前で発表する。		
	進路ガイダンスで理解を深める ○進路ガイダンスにおいて、自分の将来の適性について考える。		
	○インターンシップ前後での気持ちの変容について考えたりする。		

人格の成長を援助する

人生の先輩に学ぶ（3月）

キーワード： 職業観・勤労観 自己の生き方

自己の在り方や生き方について考え、地域や社会で働く方々と交流する体験を通して、生徒が社会的な資質や社会貢献への意識等を高めることができるよう指導します。

職業調べや座談会などを通して、働くことの意義や社会との関わり方等について学び、自己の在り方や生き方について主体的に考えるようにします。

社会や他者との関わり方を通して、自己の未来を見つめ、人間関係形成能力やコミュニケーション能力を育むとともに、主体的な自己決定の場面を設けることで、人格の成長を援助することが大切です。

対 象	第 1 学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
2 月	HR活動で調べ学習をする ○職業調べ学習を行い、職業に対する理解と働くことの意義について考えを深める。 特別活動で座談会の準備をする ○グループ毎（職業別）に集まり、個々人で調べた内容について話し合いを行い、情報の共有を図る。 ○座談会における質問内容や当日の役割などを決める。		□学習を通して、自己の 職業観・勤労観 がどのように変化したかを気付かせる。 □将来について考える態度及び主体的に学習する意欲を育成し、 自己の生き方 に関連付けて指導する。
3 月	座談会を実施する【特別活動】 ○希望したグループ（職業別）に分かれ、座談会を行う。 《具体的な活動》 ・自己紹介をする ・各職種の社会人の方に、仕事のやりがいや、その職業に就くために努力することなど質問する。 ・グループ内で交流をする。（感想や考えを発表する。） ・社会人から助言をいただき、今後の学校生活について考える。 ・ワークシートに座談会のまとめを記入する。		
	HRで振り返る ○座談会の成果について振り返りを行う。 ○他のグループの発表内容からも自己の生き方について考えを深める。		□少人数のグループに分け、主体的に発言ができるよう工夫する。 □事前活動で調べた内容や質問事項を聞くことにより、職業に対する知識や就業への意識が高まるよう指導する。 □社会人と円滑にコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。 □グループ内で意見交流することで、自己の考えが深まるよう工夫する。 □ワークシートで学習内容を整理し、効果的な発表ができるよう指導する。 □自己の適性や今後に努力すべきことなどについて主体的に考えさせ、 自己の生き方 について深く考えるように指導する。 □生徒が調べた内容を互いに共有し他者の活動を認めるとともに、情報を活用する力や広い視点で物事を捉える力の育成を図る。

Ⅲ 集団活動等における指導の在り方

子どもたちが望ましい集団を形成し、将来にわたって豊かに責任をもって生きていくためには、学校が家庭や地域と連携を十分に図りながら、様々な教育活動に取り組む必要があります。

保護者や地域の方々が集団活動等を通じて子どもたちと関わる際に、教育相談の考え方や手法を活用してもらうための資料として、平成 25 年度、リーフレット「家庭や地域で生かせる子どもとの関わり方」（巻末参照）を作成しました。

本リーフレットには、学校における教育相談の考え方や手法に取り組む際の留意点や、家庭や地域における、教育相談の考え方や手法の具体的な事例が記載されています。学校が教育相談の考え方や手法を集団活動に取り入れたり、学校が地域や家庭と連携して、集団活動等を工夫したりする際に活用することができます。

以下、本リーフレットの概要について説明するとともに、本リーフレットを活用する際の視点を示します。

1 教育相談の考え方や手法を取り入れた集団活動等の工夫

望ましい集団を形成するためには、教育相談の考え方や手法を生かし、教師の児童生徒理解を進めるとともに、児童生徒の人間関係を深め、児童生徒自身の自己表現の力を高める必要があります。

（１） 児童生徒理解を進める

児童生徒理解は生徒指導の基盤です。児童生徒理解は、一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に認識することが第一歩であり、日ごろから一人一人の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢が重要です。思春期の場合には、子どもから大人への急激な成長の変化をとげる時期であり、様々な不安や悩みを経験しながら自分自身を見付けていきます。人は理解してくれている人には安心して心を開きますが、理解してくれていない人に対しては拒否的になり、心を閉ざしたまま対応するものだからです。しかも生徒指導においては愛と信頼に基づく教育的関係が成立していなければその成果を上げることはできません。生徒指導はまず児童生徒理解から始まります。

子どもが安心して過ごしたり、自分の気持ちを分かってもらえたり、認められていると感じたりするためには、「安心感や楽しさ、充実感を与える」「よくほめる」などの関わりが必要です。

教育相談においては、子どもの話に耳を傾けることを「傾聴」といいます。また、聞き手が自分の気持ちを脇において、子どもの気持ちを推し量りながら聴くことを「受容」と言います。

話の内容によっては、批判したくなる場合もありますが、共感的な態度で話を聴くことが大切です。受容的で温かい雰囲気、話の内容にかかわらず傾聴する姿勢は、児童生徒の不安を和らげ、よりの確な児童生徒理解へとつながると考えられます。

児童生徒理解を進めるには、傾聴や受容のほか、「繰り返し」や「明確化」など、教育相談の手法を理解し、取り入れることが大切です。

このような関わりを心掛けることで、子どものもつ「悩み」や「不安」の解決を手助けすることができます。

「傾聴」や「受容」を生かした関わり方	
「傾聴」	子どもの顔を見ながらうなずいたり、受け止めの言葉を発したり、こちらから質問したりするなど、丁寧かつ積極的に話に耳を傾けます。 例：「うん、うん」「それは大変だったね」「つらかったんだね」
「受容」	反論したくなったり、批判したくなったりする気持ちを脇において、子どものそうならざるを得ない気持ちを理解しながら聴きます。 例：「そうだったんだね」「あなたの気持ちはわかるよ」
「繰り返し」	児童生徒がかすかに言ったことでも、こちらが同じことを繰り返すと、自分の言葉が届いているという実感を得て児童生徒は自身を持って話すようになります。 例：児童生徒「もう少し強くなりたい」 教師 「うん、強くなりたい」
「明確化」	うまく表現できないものを言語化して心の整理を手伝います。 例：「君としては、こんなふうに思ってきたんだね」

(2) 人間関係を深める

学校においては、子どもたちが構成的グループエンカウンターを実施することにより、自分や他者の理解を深め、温かな人間関係づくりのスキルを身に付けさせることができます。

「エンカウンター」とは、「出会う」という意味で、意図的に組み立てられたグループ活動を通して、集団のもつプラスの力を最大限に引き出す活動です。子ども同士の相互理解が進み、協力して問題解決する雰囲気をつくることができます。学級づくり等のほか、保護者会にも活用ができます。

ねらいや目的に応じて様々なエクササイズがありますので、児童生徒の実態に合わせタイムリーに実施するとともに、ねらいを明確にし、単なる遊びにならないよう、けじめをつけることが大切です。

構成的グループエンカウターの進め方

構成的グループエンカウターは、ねらいや目的に応じて様々な種類がありますが、学校の教育活動においては、次のような流れで行います。

導 入

大まかな流れについて説明します。

ウォーミングアップ

簡単なリレーション（関係）づくりを行い、心身の準備運動をします。

教師のフィードバック

エクササイズに向けた準備ができているかどうかを確認します。

エクササイズの説明

エクササイズのねらいや動きなどを説明します。

エ ク サ サ イ ズ

活動の様子をしっかりと観察します。

シ ェ ア リ ン グ

エクササイズを通して感じたこと、気付いたことなどを発表し合い、分かち合います。

ま と め

全体の振り返りを行います。

(3) 自己表現の力を高める

「アサーション」は、自分も相手も大切にする自己表現のことです。言いたいことがうまく言えなかったり、言い方が分からなかったりする場面で活用することができます。

アサーティブな表現を活用することで、相手やその時の状況について自分はどのように感じているかを正直に相手に伝えることができます。言われた相手は「責められた」という感情を抱きにくく、素直にそのことを認めやすくなります。

日常の人との関わりの中には、自分と相手との以降や方針が一致しないことがあります。そのような場合にアサーティブな自己表現をするためには、次の 3 点について考えることが有効です。

- 1 まず、自分の思いを確かめる（自分の本心、自分はどうしたいのか）
- 2 相手と事実や状況を共有する（相手と分かち合う必要がある事実はないか）
- 3 相手にとってほしい行動などについて具体的に提案する

学校生活では、自分の意見が相手と異なることがあります。次の 3 つの自己表現を比較させるなど、子どもたちにアサーティブな表現のよさを理解させることが大切です。

3つの自己表現（誘いを断る場面の例）

- 1 攻撃的（アグレッシブ）な自己表現
自分は大切にするが、相手は大切にしない表現
例：「ええっ、行きたくないよ、なんで私を誘うの？」
- 2 非主張的（ノン・アサーティブ）な自己表現
相手は大切にするが、自分は大切にしない自己表現
例：「…うーん（行きたくないなあ）どうしよう…いいよ…」
- 3 アサーティブ（アサーションを生かした）な自己表現
自分も相手も大切にする表現
例：「誘ってくれてありがとう。でも今日は〇〇があるんだよね。だからこの次のときに一緒に行こうね」

2 家庭、地域との連携

学校が家庭や地域と連携して集団活動等を行う際には、教育相談の考え方や手法を生かして、活動の雰囲気を用意的につくり、子どもの気持ちや考えを受け止めたり、子どもが相手に思いを上手に伝えたりできるようにすることが大切です。

リーフレット「家庭や地域で生かせる子どもとの関わり方」を、家庭や地域でより効果的に活用する方策を検証するため、道研教育相談担当者研修講座の受講者及び研究協力校に、本リーフレットの活用場面についてアンケート調査を行いました。

Q. 本リーフレットを活用するとすれば、どのような場面で活用しますか

- ・校外学習やゲストティーチャーを招く際、活動を工夫するため、講師との打合せで活用
- ・地区懇談会、PTA総会、PTA研修、三者面談、家庭訪問、参観日等の保護者向け資料として配付
- ・教育相談に関する研修等の参考資料
- ・保護者との懇談会で、子どもとの関わりについて話し合う時に活用
- ・子どもとのコミュニケーションで悩んでいる保護者へ配付
- ・集団カウンセリングの前に生徒へ配付

など

調査では、教育相談の考え方や手法を生かした、家庭や地域と連携する場面として、「外部の方とチームティーチングを行う場合」や「子どもとの関わり方について保護者との共通理解を図る場合」等が挙げられました。

例えば、インターンシップの受入先の関係者や、総合的な学習の時間等における講演会の講師との打合せを行う際、活動のねらいや育てたい子どもの姿の共通理解を図るとともに、具体的な活動の進め方の一つの方法として、本リーフレットで示した教育相談の考え方や手法を活用することができます。

また、PTA総会やPTA研修の際、保護者に向けて教育相談の考え方や手法を説明するなど、学校と家庭とが子どもへの指導に対する共通理解を図ることにより、より一層児童生徒理解を進め、子どもが安心して生活できる環境を整えることができます。

保護者や地域の方々が集団活動などを通じて子どもたちと関わる際、本リーフレットを活用し、教育相談の考え方や手法を生かすことにより、生き生きと主体的に行動できる子どもの育成や、愛情をもって子どもを育てていく家庭や地域の教育力の向上につながります。

Ⅳ まとめ

1 研究の成果

(1) 児童生徒の自己指導能力を育成するための活動例の作成

各教科等における学習課題や解決すべき問題を、児童生徒が自分の課題として受け止め、今後どのように行動すべきかを主体的に考え、行動につなげることができるようにするため、教育相談の機能を生かした教育活動例を作成しました。

具体的には、学校の様々な教育活動を、指導計画例として整理し、教育相談の機能を生かす視点を基にした教育活動と、新学期、長期休業の前後、学校行事の前後、学年末などの時期との関連について明らかにし、自己指導能力を育成するための教育相談の機能を生かした指導計画例を作成しました。自己指導能力を育成する視点に立った教育活動に改善する際、本計画例を活用することができます。

各学校においては、教育相談の機能を生かした指導計画を活用することにより、日常の教育活動における児童生徒の自己指導能力を育成する指導の充実が期待できます。

(2) 家庭や地域で生かせる教育相談の考え方や手法を活用するためのリーフレットの作成

保護者や地域の方々が集団活動等を通じて子どもたちと関わる際に、教育相談の考え方や手法を生かすためのリーフレットを作成しました。本リーフレットについては、保護者や地域の方々に、教育相談の考え方や手法を理解してもらうとともに、学校における校内研修の資料や、保護者や地域の方々と協同で活動を取り組む際、児童生徒との関わり方について共通した視点をもつための資料として活用することができます。

また、家庭や地域と連携する際、本リーフレットを活用し、教育相談の考え方や手法を生かすための具体的な場面を明らかにしました。

各学校においては、集団活動等における教育相談の機能を生かした家庭、地域との連携の在り方に関する資料を活用することにより、児童生徒の自己指導能力を効果的に育成することが期待できます。

2 今後の課題

本研究では、学校における自己指導能力の育成に関する活動例を作成しましたが、自己指導能力の育成を推進する取組は、児童生徒が生活する地域や家庭においても進めることが求められます。

今後は、学校における自己指導能力の育成に関する教育活動と、家庭や地域での諸活動がどのように連携できるか、その具体的な活動例を示すことが考えられます。

また、教育相談の考え方や手法を生かすためのリーフレットについて研究協力校からは、「教育相談に意識の高い人には理解しやすいが、一般の人には理解しづらい」との意見がありました。教育相談の考え方や手法は広く一般的ではないため、誤解があったり特別なものと受け取られたりして、児童生徒と関わる保護者や地域の人々に理解されにくい面があります。

今後は、教育相談の考え方や手法を生かすことについて、子どもの生活や学習の場面と一層関連させて具体化し、それらの活用を促すことが考えられます。

参考文献等

生徒指導提要 文部科学省 平成 22 年

小学校学習指導要領 文部科学省 平成 20 年 3 月告示

中学校学習指導要領 文部科学省 平成 20 年 3 月告示

高等学校学習指導要領 文部科学省 平成 21 年 3 月告示

小学校からの「生徒指導」 国立教育政策研究所紀要 140 集 平成 23 年 3 月児童生徒の教育相談の充実について（報告）教育相談等に関する調査研究協力者会議 平成 21 年 3 月

新しい生徒指導の手引き 諸富 祥彦 図書文化 平成 25 年

改訂版 アサーション・トレーニング さわやかな自己表現 平木典子 日本・精神技術研究所 平成 21 年

アサーション入門 平木典子 講談社現代新書 平成 24 年

アイスブレイク入門 今村光章 解放出版社 平成 21 年

構成的グループエンカウンター事典 國分康孝 國分久子 図書文化 平成 23 年

教師のためのアサーション 園田雅代 中釜洋子 沢崎俊之 金子書房 平成 21 年

生徒指導担当教師のための教育相談基礎の基礎 嶋崎政男 学事出版 平成 18 年

【作成者】

北海道立教育研究所研究・相談部	部長	川口淳			
	研究主幹	坪川泰嗣			
	主査	阿部穰			
	研究研修主事	土屋靖雅	花田	貴	
		岩渕啓介	今井	真	
		天野健治			
企画・研修部	研究研修主事	大脇明子	板谷	文美子	
		坂見明信	山田	圭介	
		佐々木貴信			
附属理科教育センター	研究研修主事	奈良尚久			

【平成 25 年度作成者（転出）】

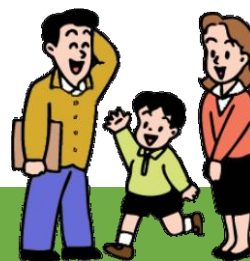
廣瀬一仁	（秩父別町立秩父別中学校長）
竹見純	（北海道教育庁十勝教育局教育支援課義務教育指導班指導主事）
杉山賢一	（北海道教育庁オホーツク教育局教育支援課高等学校教育指導班指導主事）
桑原由里子	（石狩市立花川南小学校養護教諭）

平成 25・26 年度プロジェクト研究
児童生徒の自己指導能力の育成に関する研究報告書

編集・発行 北海道立教育研究所
代表者 山田寿雄
〒069-0834 北海道江別市文京台東町 42 番地
電話 011-386-4511
発行日 平成 27 年 3 月

出会う

「構成的グループエンカウンター」



活動の雰囲気をつくる

地域の方が講師となって体験活動等を実施する際、主となる活動に向けた導入として、教育相談の手法である「構成的グループエンカウンター」の活動（エクササイズ）が活用できます。

「エンカウンター」とは、「出会う」という意味です。意図的に組み立てられたグループ活動を通して、集団のもつプラスの力を最大限に引き出す活動です。子ども同士の相互理解がすすみ、協力して問題解決する雰囲気をつくることができます。

講師： エンカウンターには、いろいろな種類があるようですが、説明に入る前に打ち解け合うことができるようなエクササイズを紹介してください。

教師： 「質問ジャンケン」（下の例）はどうでしょう。短い時間で、交流ができる効果的なエクササイズです。

「質問じゃんけん」（例）

- ① ペアになって座ります。
- ② 実施者は、ねらい、大まかな内容、ルール、留意点を説明します。
- ③ ジャンケンをして、勝った人は、負けた人に1つ質問をします。自分が聞かれて答えたくないようなことは質問しないようにします。
- ④ 負けた人は、質問に答えます。分からないことや答えられないことを質問された場合は、「わかりません」「答えられません」と言ってもかまいません。
- ⑤ ペアで、エクササイズを通して気付いたことや感じたことを交流します。

講師： 他にはどんなエクササイズがありますか。

教師： 自己紹介で活用できる「イエス・ノークイズ」やお互いの理解を深める「二者択一」などのエクササイズもあります。本やインターネットで調べると、ほかにもたくさん紹介されていますよ。

講師： はじめてやってみるのですが、注意することは何でしょうか。

教師： 流れをあらかじめしっかり確認しておくことが大切ですね。実際の場面では、子どもたちの活動の様子をよく見て指示を出すようにするとよいと思います。

聴く

「傾聴」と「受容」



気持ちを受け止める

子どもの話を聴く時、真意を十分に測らずに、つい軽く受け答えをしてしまったりすることはないでしょうか。子どもの気持ちや考えを上手に受け止めるために、教育相談の手法である「傾聴」や「受容」が活用できます。

教育相談においては、子どもの話に耳を傾けることを「傾聴」と言います。また、聞き手が自分の気持ちを脇において、子どもの気持ちを押し量りながら聴くことを「受容」と言います。このような関わりを心掛けることで、子どものもつ「悩み」や「不安」の解決を手助けすることができます。

- 保護者 : 子どもが友だちとけんかしたことを私に話し掛けてきた時、「気にしても始まらないよ、大丈夫」と言ったら、「どうせ私のことなんか」とあまり話をしてくれなくなっただです。
- 教 師 : 自分の気持ちを分かってほしかったのかもしれませんがね。そんなとき、「傾聴」といって、相手の話に耳を傾けるようにする関わりを意識するといいですよ。
- 保護者 : 子どもの話を聴いていると、「それは違うでしょ」とか「絶対にダメ」と、つい言ってしまうのです。そのことも子どもが心を閉ざしてしまうようになった原因の一つかも知れません。
- 教 師 : そうですね。子どもが相談してきたときには、相手の気持ちにより添う「受容」という関わりも大切になってきます。どちらも教育相談では非常に大切にしていることです。

「傾聴」や「受容」を生かした関わり方

「傾聴」 子どもの顔を見ながらうなずいたり、受け止めの言葉を発したり、こちらから質問したりするなど、丁寧かつ積極的に話に耳を傾けます。

例：「うん、うん」「それは大変だったね」「つらかったんだね」

「受容」 反論したくなったり、批判したくなったりする気持ちを脇において、子どものそうならざるを得ない気持ちを理解しながら聴きます。

例：「そうだったんだね」「あなたの気持ちはわかるよ」

伝える

「アサーション」



相手に思いを届ける

ボランティア活動等で地域の方々が、子どもたちと一緒に活動をする際に、子どもたちとの関わりをより円滑にする方法として、「アサーション」の考え方が活用できます。

「アサーション」は、自分も相手も大切にする自己表現のことです。言いたいことがうまく言えなかったり、言い方が分からなかったりする場面で活用することができます。
相手に自分の思いを上手に伝えることができ、人間関係が深まります。

地域の方： 子どもと接するのは、結構難しいですね。仕事的时候は、「こうして、ああして」と言うことが多いんです。子どもたちにも、つい指示的になってしまうかもしれないなあ。

教師： あまり強く言うと、子どもたちにとっては、押し付けに聞こえるかもしれませんね。でも、子どもたちの好きなようにさせて、アドバイスしたいことも我慢して黙っていても、子どものやる気は出ませんよね。

地域の方： 私の思いをうまく伝えながら、子どもたちと気持ちよく活動したいのですが…。

教師： 「どうしたらいいか分からないかな？ こうやると、きっと早く終わるよ」というように、子どものことを理解してあげた上で、言いたいことを伝えてみてはどうでしょう。

地域の方： 確かにそういう言い方だと、うまく伝えられますね。

アサーティブ（アサーションを生かした）な表現の例

「この作業は面倒だね。でも大事な手順なので丁寧にやってほしいんだ」
「分かってくれてありがとう。完成が楽しみだね」